

## 「いわての復興教育推進事業（震災学習列車活用スクール）」成果報告書

学校名：山田町立大沢小学校 山田町立山田北小学校 山田町立山田南小学校  
山田町立織笠小学校 山田町立轟木小学校 山田町立大浦小学校

### I 事業の概要（地域の実情含む）

本町は平成23年3月11日の東日本大震災・津波により甚大な被害を受けた。8年が経過した今、新しい道路や宅地、防潮堤の整備など、ハード面での復興が着実に進み、町の姿は大きく変化してきている。平成31年3月23日の三陸鉄道の再開にあたっては、多くの町民が町内各駅に集結し、復興の大きな節目となる日を迎えた喜びを分かち合った。

また、令和2年4月には、実施校である6校が統合し、1校の新設校となる。これまで小規模校の中で学んできた児童たちが、多くの仲間と切磋琢磨できる新しい環境ができあがる。

以上のことから、次の2点をねらいとして本事業を実施する。

- ①三陸鉄道の再開やラグビーワールドカップの開催など、復興への希望を象徴する取り組みに触れ、ふるさとの新しい町づくりへの参画意識を高める。
- ②統合する6校の児童が震災学習を通して交流を深め、統合校での学びへの意欲を高める。

### II 取組の概要

#### 1 事前学習

各校で、副読本やリーフレット等の資料により、事前学習を行った。

- ・三陸鉄道の歴史、震災による被害状況について
- ・鶴住居地区の被災状況について
- ・ラグビーワールドカップについて 等

#### 2 震災学習列車

##### (1) 陸中山田駅の駅舎見学

6校の児童94名が陸中山田駅に集合し、駅舎を見学した。駅舎の管理を委託されている山田町観光協会事務局長 沼崎真也さんから、駅舎のデザインや利用者の様子などについてお話を伺った。



##### (2) 震災学習列車での学習

三陸鉄道リアス線の陸中山田駅から鶴住居駅までの区間を乗車した。列車に初めて乗車した児童も多く、車窓からの景色を楽しむことができた。

車内では三鉄職員のガイドから、写真パネルを用いながら震災当時の様子について説明していただき、真剣に耳を傾けていた。



##### 3 釜石鶴住居復興スタジアム見学

ラグビーワールドカップ開催に向けた環境整備ボランティア活動として、スタジアム周辺の草取り作業を行った。釜石市ラグビーワールドカップ2019推進本部事務局 主任 長田剛さんからお話を伺い、被災地で大会が開催されることの意義を学ぶことができた。



### Ⅲ 取組の成果と課題

#### 1 参加した児童の感想から

- 初めてスタジアムを見て、広いと思いました。芝生がふかふかで気持ちよかったです。復興スタジアムが希望の光になるというお話が心に残りました。僕は草をたくさん取りました。ワールドカップを成功させるためにがんばりました。列車には「三陸鉄道のたたかい（いわての復興教育副読本）」の話を読んで乗りました。三鉄の人たちが震災の後、がれきをよけて復旧作業をしてくれてお客さんのために走らせたことを知りました。三鉄は僕たちの町にとって大切な鉄道だと思いました。山田駅はオランダの風車の形のかわいい駅です。全国の人に山田に来てほしいです。
- 初めて列車に乗り、列車の中から復興が進んでいる景色を見ることができてよかったです。
- グループの人と話すのは緊張したけど、来年統合する他の学校の人と仲良くなれてよかったです。
- 列車に乗って、来年、友達が多くなるんだなと思ったので楽しかったです。
- 僕たちは、復興を支える人になります。震災前よりももっと豊かな環境にしていきたいです。

#### 2 成果と課題

##### (1) 成果

- 震災学習列車活用スクールへの取組を通して、東日本大震災津波の経験を風化させることなく、常に災害に対して備える気持ちをも

つことの大切さを改めて意識する機会となった。また、三陸鉄道の再開やラグビーワールドカップの開催など、復興への希望を象徴する取り組みに触れ、ふるさとの新しい町づくりが進んでいることを実感することができた。

- 三陸鉄道に初めて乗車した児童が多く、車窓からの美しい景色を楽しみながら乗車することができた。車内での三陸鉄道職員の方のお話にも真剣に耳を傾け、震災当時の様子や鉄道再開までの歩みについて学ぶことができた。
- 釜石鶴住居復興スタジアム見学では、釜石市ラグビーワールドカップ 2019 推進本部事務局の方のお話を通して、ワールドカップ開催に込められた人々の想いを知り、被災地で開催されることの意義について学ぶことができた。また、環境整備作業としてスタジアム周辺の草取り作業を行い、自分たちも大会の開催に参画したという意識をもつことができた。
- 来年度統合する6校の児童94名が参加した。説明を聞く時間が多く、児童同士の交流の時間が少なかったが、互いに気遣いながら仲良く活動することができた。

##### (2) 課題

- 復興教育における体験的な学習の大切さを再認識した。年間計画に位置付けながら今後も実施していきたいが、予算等について検討が必要である。

